

適切な環境と周りの配慮で生きづらさを軽減

発達障害への

理解を深めましょう

関地域福祉課障害者支援班 ☎23-1243

世界自閉症啓発デーと発達障害啓発週間とは？

毎年4月2日は国連が定める「世界自閉症啓発デー」です。厚生労働省や関係団体が協力して「自閉症」について広く理解を深めてもらうための取組を行っています。

また、4月2日から8日までを自閉症をはじめとする発達障害を知ってもらうための「発達障害啓発週間」としています。

日本各地でブルーライトアップやシンポジウムの開催など発達障害について理解してもらう取組が行われています。

市役所庁舎も

ブルーライトアップ

発達障害啓発週間には、「いやし・希望・平穩」を表す「青」をシンボルカラーとして、各地でライトアップやイベントが行われます。

市役所庁舎でも行っていますので、近くを通られたときにはご覧ください。

■日時 4/2(土)〜4/8(金)

■日没後〜21:00

■場所 長門市役所正面玄関

長門市で活動する親の会

「発達障がいを考える会

ブルースター」

市内の発達障害児・者とその家族への支援を目的に平成16年に設立されました。定期的な公開講演会の開催により、医療・教育・福祉・行政関係者だけでなく、地域住民の発達障害に関する理解が徐々に深まっています。

市役所庁舎でも行っていますので、近くを通られたときにはご覧ください。



発達障害ってどんな障害？まずは理解することから

発達障害は、生まれつき見られる脳機能の働き方が関係する障害です。

幼児のうちから行動面や情緒面に特徴があるため、養育者が育児の悩みを抱えたり、子どもが生きづらさを感じたりすることもあります。また、大人になってから発達障害の診断を受ける人も増えてきています。

しかし、発達障害は外見からは分かりにくく、他人から理解されずに困っていたり、一人で悩んでしまう場合があります。

発達障害があっても、本人や家族・周囲の人が特性に応じた日常生活や学校・職場での過ごし方を工夫することで、持っている力を活かしやすくなったり、日常生活の困難を軽減させたりすることができます。

発達障害の種類

発達障害は行動や特性により、さまざまな個別の障害に分類されます。同じ障害名でも特性の現れ方が違ったり、いくつかの発達障害を併せ持ったりすることもあります。

●注意欠如・多動症 (ADHD)

発達年齢に比べて、落ち着きがない、待てない(多動性・衝動性)、注意が持続しにくい、作業にミスが多い(不注意)といった特性があります。多動性・衝動性と不注意が両方認められる場合もあれば、いずれか一方が認められる場合もあります。

●自閉スペクトラム症

コミュニケーションの場面で、言葉や表情、身振りなどを用いて相互的にやりとりをしたり、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを読み取ったりすることが苦手です。また、特定のことに強い関心をもっていたり、こだわりが強かったりします。また、感覚の過敏さを持ち合わせている場合もあります。

●学習障害 (LD)

全般的な知的発達には問題がないのに、読む、書く、計算するなど特定の学習のみに困難が認められる状態をいいます。

「はじめの一步」

発達を気にされている保護者向けの冊子を市ホームページで公開しています。市の支援のしくみなどを掲載しています。



市ホームページ「はじめの一步」

<https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/soshiki/9/21601.html>



マスクを着けられない人への理解を
発達障害がある場合、触覚・嗅覚などの感覚過敏といった障害特性のためマスクを着けることがすごく苦手な人もいます。周りの皆さんの理解をお願いします。